

長崎っ子の心を見つめる教育週間（校長講話）原稿

今回は、本日から始まる『長崎っ子の心を見つめる教育週間』の最初の取組として、この講話があります。この教育週間の歴史と目的を説明します。

まずは、本教育週間のきっかけとなった事件がありますが、

その前に、このような話がありました。（理科の教員として生命を教えるときの資料）

家の人が子どものためにカブトムシを買ってきました。買ってもらった子どもはとても喜び、虫かごに入れて自分の部屋に入っていました。数時間後、その子が不思議そうな顔をしながら戻ってきました。『モーターが無いよ。』と言いながら、家の人に手足をバラバラにしたカブトムシを見せたそうです。＝生き物なのか品物なのか判断できない話＝

こんな生徒を相手に、どう理科を教えますか？

※作り話で、そんなことが起きる訳がないと思っていました。

生命をどう考えているのか理解できない事件が起きました。

＝平成15年7月1日 長崎男児誘拐殺人事件＝

長崎市内中学校の中学生が幼児を誘拐し、市内施設から突き落とし殺害するという事件

＝平成16年6月1日 佐世保市小六女児同級生殺人事件＝

佐世保市内の小学校で小6年の女児が同級生を刃物で刺して殺害するという事件

＝平成26年7月26日 佐世保女子高校生殺害事件＝

佐世保市内の高校生が自宅で同級生を刃物で刺して殺害するという事件

（H23年～25年度生まれの皆さん方にとっては歴史です。）

『いのちを輝かせて生きる 心豊かな長崎っ子の育成』をテーマに、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が平成16年からスタートしました。

＝ここから少し考えてください。＝

●誰がするの？

皆さん一人ひとりの生徒は勿論ですが、周囲の大人たち（先生たち並びに保護者・地域の方々）も共に取り組みましようとなっています。

●誰の心を？

皆さん方は、周囲の人の心が対象となります。周囲の人の考えや命を大切にしようとなります。但し、もう一つあります。それは自分自身の心も対象です。これは、自殺した生徒が「本当に、そうしたかったのか？」そんな訳ないないはずです。

問題は **見えない心はどう見るか！ということになります。**

●心はどう見るの？

「無理だ」と諦めるか、**見ようと努力する**かでは大きな違いがあります。正確には、見ては何かをはっきりさせるのではなく、**見て・考え(感じ)・何かを行動しようとする点**が重要だと思います。

本教育週間の重点目標として、
自他の生命を尊重しようとする点は当然であり、その他の視点として SNS 等の情報あるいは、いじめ等がない安全な学校が挙げられています。**この一週間、いつも以上に自分自身並びに周囲の人々のことを見て・考え(感じ)てみてから行動にうつ**してみてください。

令和7年6月23日

長崎市立滑石中学校 校長 神尾進二